



ハノイ到着翌日の6日、ジェットロ茨城の視察団が真っ先に訪れたのはジェットロハノイ事務所。ベトナムの経済事情についての説明の後、一行は同フロアにあるビジネスサポートセンターを見学した。

サポート

ジェットロが橋渡し

同センターは、アジア各国に拠点を設立するまでの短期貸しオフィスで、ベトナムは3カ月間、3万円(税別)で提供。机やいす、ファクスなどを備え、パソコンがあれば即入居

可能。ハノイのセンターは過去に約60社が利用

を担当。「橋渡し役がジェットロの重要な機能」と説明した。同国在住22年のコンサルタント、市川匡四郎さんも「中小企業は最初にジェットロに行く

は精神的に活動。企業進出や食品輸出などの相談が連日寄せられ、対象国で一番多かったのがベトナムという。県内誘致を要請した県も「企業などの海外進出への機運が高まった」と、ジェットロ効果に目を見張る。

視察団に参加した県産業政策課の阿部哲朗経済交流支援室長は「ジェットロを最大限活用してもらったのが県の使命」と力を込めた。常陽銀行(水戸市)も同国のベトナムバンクと昨年12月に業務提携し、企業の進出支援

用し、うち40社程度の進出が決まった。

ジェットロ茨城の西川壮太郎所長も3月まで4年半、同事務所に勤務し、同国内の優良企業のリストアップなど

「べき」と強調した。県は3月、県内中小企業の海外展開の後押しに向け、海外進出サポート協議会(参加企業47社)を設立。今回のミッションもジェットロ茨城と共催した。

に力を入れる。県訪問団に加わった寺門一義頭取は、国家主席への表敬訪問の席上、「新たな窓口の下、積極的に情報提供していく」と決意を述べた。

開所で進出機運醸成

視察団の帰国から約2週間後の22日、日本企業誘致のため来日しているハナム省のマイ・ティエン・ズン知事が水戸市を訪れ、メン

バーらと再会した。ズン知事は懇談会で、茨城技研(北茨城市)の同省への進出決定を発表した。同社からは視察団に2人が参加しており、今回のミ

ジェットロハノイ事務所のビジネスサポートセンターを訪れた視察団一行は6日、ハノイ

セッションによる進出決定第1号となった。同社の大塚浩司営業本部長は「ベトナムやハナム省の発展に工業の面から貢献していく」と意欲を見せた。懇談会では他のメンバーも視察の印象や成果を発表し、同国への進出などへ向けた前向きな発言が次々と飛び出した。そんなやりとりを見ながら、西川所長は満足そうに振り返った。「参加者が現地を実際に見て、可能性を感じてくれたのが、今回のミッションの一番の成果だ」(おわり)

茨城技研ベトナム進出

ハナム省知事が正式発表

ベトナム・ハナム省知事が22日、日本企業のマイ・ティエン・ズ業の誘致活動の一環で

水戸市を訪れ、山口やちる副知事や7日に同省を訪れたジェットロ茨城視察団のメンバーらと懇談した。ズン知事は懇談会に先立ち、視察団に2人を派遣した

茨城技研（北茨城市）の堀二十男社長らと協議し、同社工場のハナム省進出が正式に決定した。

記念品を交換するハナム省のマイ・ティエン・ズン知事と山口やちる副知事（右から）
水戸市千波町

プラザホテルで開かれた懇談会で、山口副知事は「今後、国レベルから（県と同省の）地方レベルへのきめ細かい交流が進むことを期待している」とあいさつした。

ズン知事は、同省のPRを行うとともに、茨城技研の進出決定を公表。「日系企業が困難なく投資できる環境づくりを努めている」とアピールした。

茨城技研は金属部品の精密プレス加工などを手掛け、海外拠点はフィリピンのマニラ、セブに次いで3カ所目。同省内のドンバン2工業団地に来年春ごろ、工場を開設し、夏ごろ稼働する方針。

同省は首都ハノイの南に位置し、視察団訪問時にはズン知事が自ら優遇措置などの説明を行った。今回は同省からズン知事ら11人が来日し、各地で誘致活動を行う途中、本県にも立ち寄った。

水戸市千波町の水戸